9　白山神社の修復･再建

1　氏子によって守られてきた神社

白山神社の鎮守の森である境内を散策してみると、本殿、幣殿、拝殿といった社殿をはじめ、境内社、社務所といった建築物や、鳥居、社号標などの多くの建造物があります。

これらの施設や設置物は、住民(氏子)の奉賛により造られ守られてきました。

高温多湿、自然災害の多いこの地で、木造の社殿を維持していくのは、想像以上に大変で、清掃と修理は欠かせませんでした。

津島神社例大祭の朝　令和４年７月 24 日
夏の青空に津島神社の幟がはためく

松河戸では古く縄文後期の時代から「自然崇拝」「祖先崇拝」がおこなわれていましたが、室町時代になると、村落という自治組織が生まれ、最小自治組織である島の中核として、各島では、守護神を祀るため神社を創建することとなります。

神(自然)と人間を結ぶ具体的作法が「祭祀」であり、その祭祀を行う場所が「神社」であり聖域とされました。

これ以降､松河戸の各島の人達は自分たちの生活の基盤となる神社を修復･再建しながら大切に守っていくこととなります。

厳かな社殿
拝殿､奥にみえるのが幣殿でその奥に本殿がある。
令和４年秋の日常

江戸時代になると、各島では主要な神社(崇敬神社)から祭神を分霊するようになり、鎮守の森で祀られる氏神様は、大衆信仰として根ざし、四季折々の中で、その時々の恵みを祈ったり、収穫を感謝したりと、島の人達の朝晩の参拝がそこで行われ、集合の場所としても利用されてきました。

大正元年に「１村１社合祀令」により、各島の神社の神が白山神社に合祀又は境内社とされ、白山神社は村社となり、境内には当時の各島の神社の社号標や石碑などが移築され、村全体の自治活動の中心の場となりました。

再建7年目の本殿と､2代目神木タブノキ
穏やかな春のひと時
本殿に降り注ぐ木漏れ日がまぶしい。
平成 10 年３月

戦後､政教分離で神社の施設は神々を祀る本来の意味合いに戻りましたが、今でも住民の親睦や癒しの場になっています。

現在の白山神社の社殿は、区画整理を見据え、平成２年に建て替えられ、平成 22 年に神社境界が確定し整備が行われ、境内を区切る「玉垣」も完成し、境内は大きく変わりました。

この様に白山神社の社殿は､創建以来､500 年以上に渡って村人によって守られてきたのです。

時には大水で流されたこともあったでしょうし、台風によって倒壊したこともあったでしょうが、その度に、補修され再建され現在に至っています。

住民(氏子)によって大事に守られてきた様子について調べてみることとしました。

2 白山神社建立から

神社とは、祭祀を行う組織をいいますが、神々を祀るための建物や施設の総称でもあります。

神社の境内は「鳥居」の内側を差し、「玉垣」と呼ばれる石柱が巡らされている範囲を神域としており、神様と参拝する人々を結ぶひとつの世界でもあります。

白山神社は、明応３年(1494)に再建されたことが「戦前の棟札」から分かっているので、それ以前からこの場所に存在して、幾度となく再建や修復が行われてきました。

明応３年(1494)という年は、松河戸にとって因縁のある年となります。

６月に、「十五の森」の悲話伝説を作った大きな洪水が起こり、６月 29 日に 15 歳の娘さんが人柱として埋められました。

白山神社建立・整備年表

明応以前(1400 年代) 明応３年(1494)	創建　戦前の棟札から奉造立明応３年とあるので、明応３年かそれ以前とも考えられる。(戦前の棟札に記載されていたその棟札は所在不明)
慶長年間(1596～1614)	尾張徇行記には、境内除地及び燈明料の田が認められているものとして、白山祠以下６社があげられており、白山祠は慶長年間(1596～1614)の**建立**とある。 しかし、戦前の棟札には**再興**　明応３年と記載されていた(棟札不明)。
慶長年間 11 年(1606)	**再興**　戦前の棟札に記載されていた。(棟札不明)
元和９年(1623)	**再興**　戦前の棟札に記載されていた。(棟札不明)
享保２年(1717)	白山一王子神社**修復**　戦前の棟札に記載されていた。(棟札あり、享保２年１月 23 日)
大正元年(1912)	村内の神社を合祀又は境内社とする。村社(白山神社)に列せられる。
昭和 11 年(1936)	**白山社本殿建立**(旧社)　(棟札あり、昭和 11 年６月 14 日)
昭和 15 年(1940)	**白山神社本殿建立**(旧社)　(棟札あり、昭和 15 年１月 14 日)
昭和 34 年(1959)	伊勢湾台風により境内の多くの大木が倒木する。(９月 26 日)
昭和 50 年(1975)	白山神社祭文殿 末社**修理**　(棟札あり、昭和 50 年７月 31 日)
昭和 55 年(1980)	社務所**新築**　(棟札あり、昭和 55 年１月 13 日)
平成２年(1990)	区画整理を見据え、現在の**社殿に建て替え**られ、境内の配置が見直された。
平成５年(1993)～	区画整理に伴い各祠を境内に移す。
平成 23 年(2011)	区画整理での神社境界が確定して**境内整備**される。

○白山神社再建の棟札(むなふだ)

戦前まで残っていた白山神社再建の棟札(むねふだ)は現在不明です。ただし、戦前の神社の記録に棟札の文字は残されていました。

それには、奉造立明応３年(1494)とありますので、建立は明応３年かそれ以前となります。

「奉造立一御前上肯明應参年甲寅三月六日敬白 大工山田莊上飯田藤原長久九郎兵衛 檀那庵実内道範淨金徳兵衛 近本弥七」

「奉再興上茜月一之王子願主敬白　慶長拾壹年丙午九月十五日」

「奉再興一王子　尾州東春日井郡柏井郷松河戸村敬白　大工藤原弥衛門　同茂左工門　社人丹羽源右工門　時二元和第九亥子(1)卯月十五日　本願　生田藤十郎」

裏面　矢野多左衛門　加藤善太郎　各々　檀那

註　(1)亥子→癸亥の誤りか。

① 東春日井郡の文字は、棟札から転記する際に、記入者が誤って当時の郡名を書いたものと思われる。東→取る

② この記録から推測すると、明応、慶長、元和の古い棟札を新しく一枚の棟札の表と裏にまとめて書き直したものと考えられる。

③ いずれも社名はないが「一王子」は白山神社現存最古の棟札(享保２年)にも同じ記載がある。

④ 慶長と元和の棟札には、奉再興とあるが、明応の棟札には、奉造立とあるので白山社の創建を伝えるものと考えられる。

⑤ この記録には「宝物　古代陶器高麗狛一対」とある。この狛犬は昭和の中頃(昭和 34 年目撃者の談)まで、本殿前の廊下に安置されていた。

資料　郷土史かすがい　第 53 号白山信仰

3　島の神社統合以降の再建・整備

大正元年以降行われてきた４つの大きな再建・整備事業について見てみます。

（1）大正元年に島の神社が白山神社に合祀・境内社とされ境内整備された
（4 祭神の合祀と島の神社・御嶽社の境内社への移築、鳥居や社号標の建立）

大正元年９月に「１村１社合祀令」により、各島の神社が白山社に合祀あるいは境内社とされ、白山社(白山神社)は松河戸村の「村社」となり、この時に白山神社の境内が整備されています。

境内の本殿西側には、各島の祠が境内社として安置され、各神社の社号標や石碑なども移築されています。

境内社(五社)　写真は平成 25 年頃

また、不浄除（目隠し門)の東側には、石造物を御嶽山を模して小山を築き、「御嶽大権現」や「行者像」を中心にして、「御嶽先達」「大峯先達」碑を配していますが、これも昌福寺からこの頃に移築され大正元年に境内社となりました。

その他に、旧社号標(大正元年 10 月建立)や、旧鳥居(大正元年 11 月建立)も建てられました。

旧社号標は現在幣殿の東側に移築されており、旧鳥居は平成 22 年に撤去され、柱は裏門の門柱となっています。

御嶽社　写真は令和４年
「御嶽大権現」や「行者像」、
「御嶽先達」「大峯先達」の石碑

下の３枚の古写真が残されており、同時期のものと思われますが、いつ撮られたのか分かりません。また、写っている社殿はいつの時代のものでしょう。

下左写真の社号標は旧社号標(大正元年 10 月建立)で、現在の社号標(昭和５年２月建立)のものではないので、大正元年～昭和５年の写真と考えられます。

更に、下中写真の幣殿前の狛犬は、現在の幣殿前に設置してあるもの(大正７年建立)と同じものと考えられるので、この写真は、大正７年～昭和５年に撮られた写真であると推測できます。

また、昭和 11 年に旧社殿が再建されていますので、写真の社殿は旧社殿の前の社殿であり、各島の神社が統合された以前(大正元年以前)の社殿と思われます。

社殿の様式は、今の社殿とほとんど変わりがなく３代にわたり踏襲されていることが分かります。

旧社号標

現在神馬の北にある。
写真は令和４年

石造りの簡明な旧神明鳥居、
右側には旧社号標が立っており、どちらも大正元年建立された。
大灯篭は、東側に秋葉山、西側に太神宮で元治元年に建立されたもの。
写真は、大正７年～昭和５年

切り妻の平入の旧幣殿(祭文殿)
大正７年に設置された狛犬がみえる。
写真は、大正７年～昭和５年

切妻の妻入の旧拝殿
写真は、大正７年～昭和５年

（2） 昭和 11 年に旧本殿が建立された
本殿、神馬、西側の灯明台などの建立

簡素な神明造りの旧神殿（本殿）
写真は平成元年頃

旧本殿は昭和 11 年に建立されています。

昭和 11 年といえば、県下児童生徒席上揮毫大会が開かれた年であり、日中戦争勃発の前年でもありました。

不思議なことに昭和 11 年(1936) 6 月の白山社本殿新立替の棟札がありますが、昭和 15 年(1940) 1 月の白山神社本殿立替の棟札も残されています。

昭和 10 年の本殿建立の奉納金掲示板名簿が残されていましたが、昭和 15 年の上棟式収支明細書もありました。

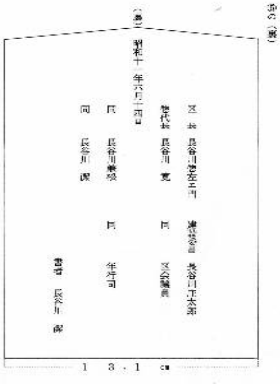
僅か 4 年で建替えられたとも考えられないので、4 年の間隔の意味は何でしょう。

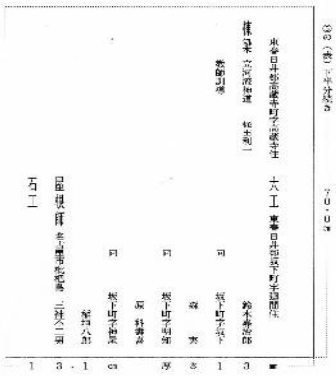
昭和 11 年 10 月に奉納建立された神馬

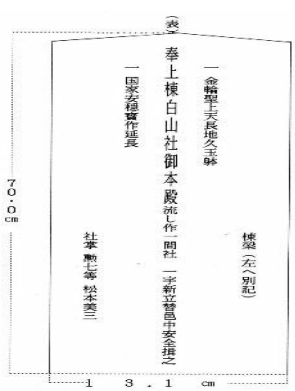
昭和 11 年 10 月には神馬が奉納建立されており、西側の灯明台は昭和11年 8 月奉納建立されていることなどから、旧本殿は昭和 11 年に建立されたものとされています。

本殿建立の奉納金掲示板名簿　昭和 10 年

なお、時間は経過しますが、昭和 50 年に祭文殿(幣殿)の修理がされています。



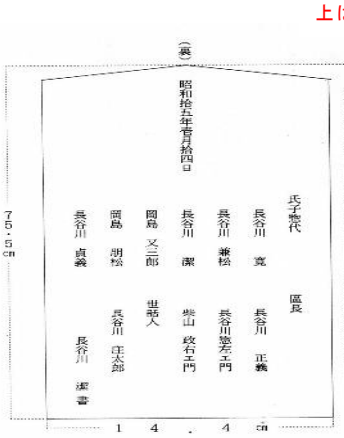


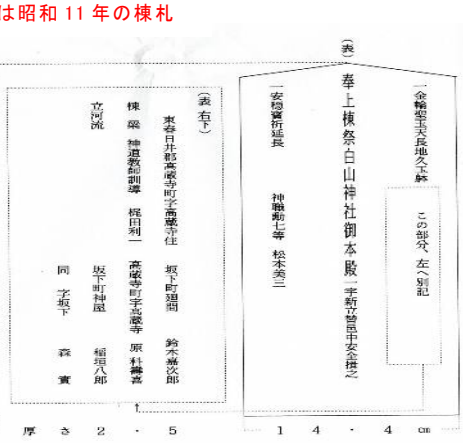


⑤白山社本殿新立替　昭和十一年（1936）

上は昭和 11 年の棟札

上棟式収支明細簿　昭和 15 年

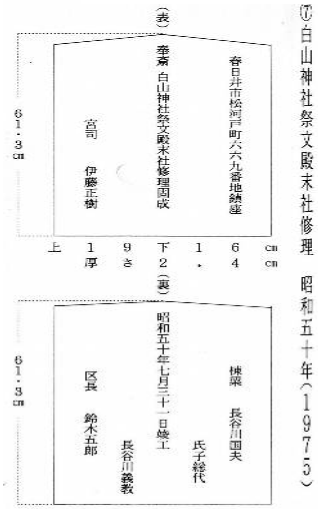




⑥白山神社本殿立替　昭和十五年（1940）

下は昭和 15 年の棟札

棟札は本殿の中に保管されており、平成 10 年3月岡嶋博氏が写し取ったもの



⑦白山神社祭文殿末社修理　昭和五十年（1975）

昭和 50 年祭文殿修理の棟札

（3） 平成2年に区画整理を見据え、現在の社殿に建て替えられた

本殿、祭文殿、拝殿、透垣門、手水舎、境内社や、便所、鳥居、大灯篭、拝殿前の狛犬、由緒石碑などの建立

旧社殿においての最後の白山神社例大祭
平成元年 10 月 10 日

旧本殿は、昭和 11 年に建設されたもので、55 年程しか経っていませんでしたが、その間太平洋戦争、東南海地震や伊勢湾台風などに遭って老朽化が進んでいました。

昭和 63 年市施行による区画整理が決定したころ、区民からお寺(観音寺)も建て替えられたし、神社も老朽化していることから、この際立て替えたらどうかとの意見が出ていました。

平成元年 1 月の区会の席上で氏子総代の発言により、区会の氏子担当が中心となり再建準備が進められ、6 月 5 日には白山神社造営委員 13 人が決まりました。

旧白山神社　社殿　解体清祓い時

再建にあたっては、この頃、鉄筋コンクリートの社殿も増えており検討されましたが、古来建築の美を求め今までどおり木造建築とし、従来の規模・様式を基準としました。

そして、現在の社殿は、総工費 7 千万円をかけて平成 2 年に建て替えられました。

資金は、白山神社所有の土地(河戸 745 番地の 1 山林 552m²)、(村中 1301 番地の 4 畑 796 m²)で、1 m²当り 57,500 円で市土地開発公社に公共施設充当用地として売却(77,510,000 円)して神社造営資金に充当しました。

なお、社殿の造りは「尾張造り」といって、本殿、幣殿、拝殿を廊下で繋いだ左右対称の建築様式(尾張地方独特の建築様式)ですが、資金不足のため本殿と幣殿を繋ぐ廊下が造れなかったとのことです。

建設当時の拝殿

境内の配置など基本設計はこの時に出来上がっています。

区画整理で参道の中を道路が通ることを見据えて、平成 3 年 6 月に新鳥居が建てられ(写真の奥に見えているもの)、前面の大灯篭や、拝殿前の狛犬、灯明、手水舎、灯篭や、幣殿前の灯篭なども氏子等の寄付により同時に設置されました。

また、社殿建立を祈念して由緒石碑が建てられました。

この時、篝火台、拝殿鈴、社殿幕、幟なども寄付により新調されています。

▲平成13年　白山神社掃除

一の鳥居　清掃活動　写真は平成 13 年
参道の中に新しい二の鳥居ができている。

旧鳥居(写真手前)は、大正元年の村内の神社を合祀又は境内社とされた時に建てられたもので、鳥居の神社境界確定・整備が行われる平成 23 年までの 20 年間 2 つの鳥居(一の鳥居、二の鳥居)が存在していました。

拝殿に向かう参道沿いには、左側に厄年の人達、右側に還暦の人達の寄進した灯篭が並んでいますが、この時以降(平成 5 年～8 年)に整備されました。

平成２年 11 月 27 日に「上棟式」、「もち投げ」、平成３年６月 24 日に「遷座祭」が行われ、平成３年６月 30 日に「竣工奉祝祭」、「稚児行列」など諸行事が行われました。

造営資金決算報告書　平成４年２月

収入	金額（円）
土地売却	77,510,000
積立金	3,543,668
雑収入(寄付等残)	5,682,924
合計	86,736,592

支出	金額（円）
建設工事費	69,905,000
附帯工事費	3,173,152
修繕費	607,172
社・購入費(五社)	2,060,000
建物更生共済費	6,884,000
式典費	1,694,211
事務費	373,621
雑費	1,834,600
合計	86,531,756

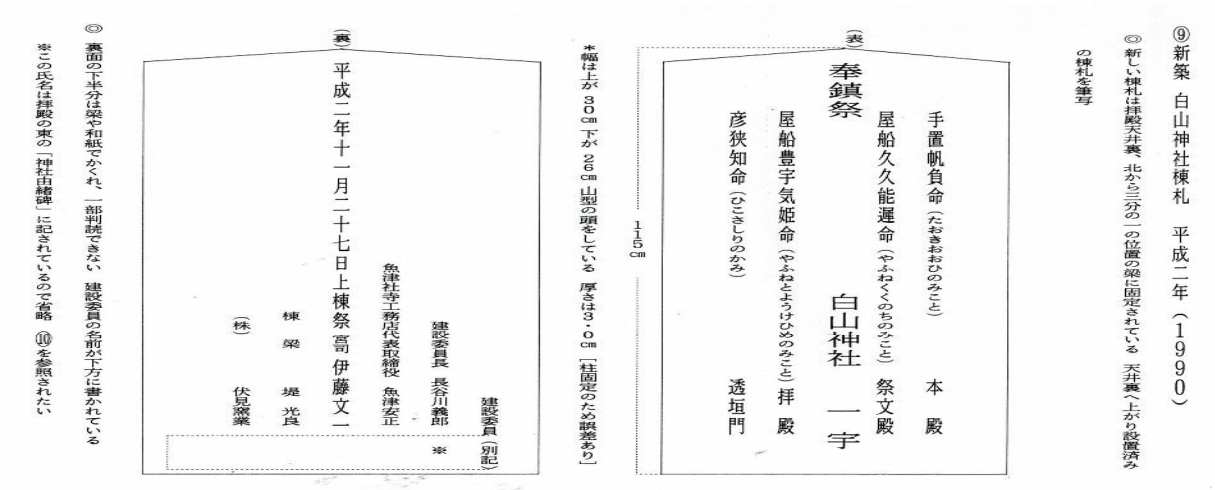
特別会計	収入(円)	支出(円)
	8,096,480	8,037,721
	(寄付金)	(調度品等)

着工平成２年１月１日、完成３年５月 31 日
請負業者　魚津社寺工務店(名古屋)

上棟祭　もち投げ　平成２年 11 月 27 日

遷座祭　平成３年６月 24 日

稚児行列のお祓い　平成３年６月 30 日
昌福寺から白山神社へ稚児行列を行った。



棟札は本殿の中に保管されており、平成 10 年３月岡嶋博氏が写し取ったもの

（4） 平成 22 年に区画整理で神社境界が確定して、境内の配置が見直され整備された

抹消地内の社号標、灯篭、玉垣の移転や、玉垣、幟立て、自転車置き場、駐車場などの整備

平成 22 年には神社境界が確定し、平成 22 年 10 月地鎮祭、平成 23 年 5 月完成奉告祭が行われました。

２千８百万円をかけて整備が行われ、資金は、区画整理による移転補償費(工作物 20,768,000 円、立木 6,504,000 円、その他 364,000 円)によって賄われました。

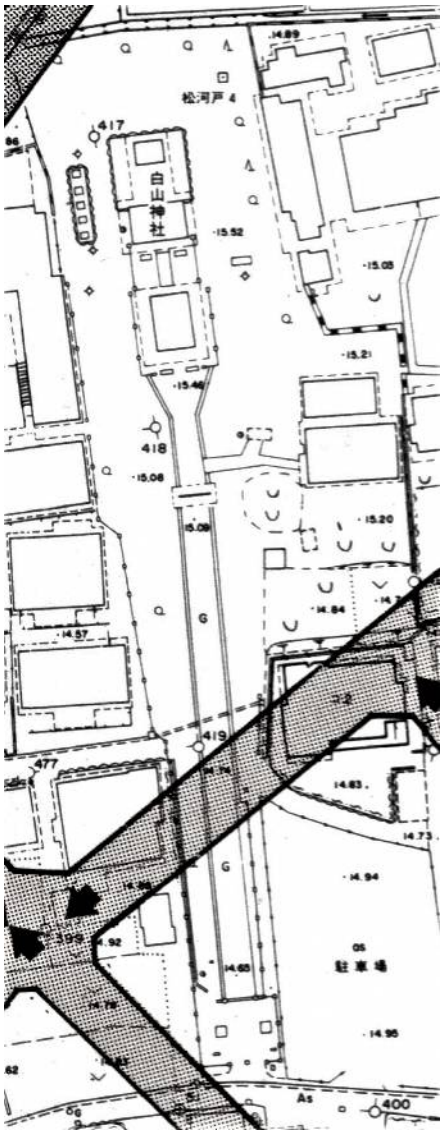
すでに、平成 2 年の社殿建立以降、境内の配置など基本設計は出来上がっており、それに従って整備が進められてきましたので、抹消地内の社号標や灯篭、玉垣などの移転などが行われました。

また、境内を区切る「玉垣」や、幟立て、自転車置き場や駐車場など境内回りの整備が行われました。

旧鳥居は解体され、鳥居上部の横柱は現在倉庫の北側に置かれており、柱については境内の裏門の石柱となっています。

長かった参道は半分程度(35m が喪失)になりましたが、参道沿いには寄進された灯篭で整備され、境内を区切る「玉垣」の石柱も氏子の寄付で巡らされました。

当初の計画では、旧鳥居、旧大灯篭、旧車止めを裏門の所へ持っていく計画がありましたが、神社形式に反するとのことで、裏門は神社整備車両などの通用門として旧鳥居の柱だけを置くこととしました。



参道の真ん中に道路が通ることとなる。

平成 22 年 10 月
地鎮祭を終えて工事開始

平成 23 年 3 月　改修工事完了
5 月の完成奉告祭前

○ 抹消地内の移転物件一覧表

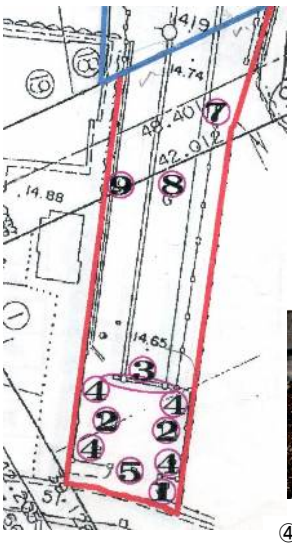
（参道は半分程度(35m が喪失)になり、そこに設置してあった物件の状況）

番号	物件名	（明細）	現状
①	神社名標柱（社号標）	36.5×36.5×300　昭和 5 年 2 月建立	現在の場所に移転
②	大灯篭	東側「常夜灯」「秋葉山」「村中安全」元治元年(1864)正月建立 西側「常夜灯」「太神宮」「村中安全」元治元年(1864)正月建立	撤去され、倉庫の裏に解体されて置かれている。
③	鳥居	柱の下部の回り 108 ㎝、直径 34.4 ㎝、2 本の柱の間 298 ㎝ 大正元年(1912)11 月建立 神明鳥居	解体され、鳥居上部の横柱は倉庫の北側に置かれており、柱については境内の裏門の石柱となっている。
④	祭礼用幟台座	手前(南)が明治 29 年(1896) 6 月建立(台座石(31.5×18.5×92.0 二対)、白山神社例祭用 奥(北)が昭和 7 年(1932)10 月建立(台座石(21.0×15.0×83.0 二対)　津島神社例祭用	倉庫の裏に置かれている。
⑤	車止め石柱	20×14×126	倉庫の裏に置かれている。
⑥	小野社用門柱	2 本(旧小野社移転に伴い日章旗掲揚塔の横に置かれていた)	道風公園内の小野社に使用
⑦	百度石	(18.5×17.5×53.0)「還暦記念「昭和 6 年 2 月 11 日建立」	現在の場所に移転
⑧	提灯山棒立基礎	支柱を固定した穴　82×40	撤去し廃棄
⑨	日章旗掲揚塔	下部鉄骨 3 本	撤去し新設

抹消地の全景

①神社名標柱　②大灯篭　③鳥居

北



②大灯篭　③鳥居　⑤車止め

⑥小野社用門柱　⑨日章旗掲揚塔

④祭礼用幟台座(白山神社例祭用(右側)　⑧提灯山棒立基礎　⑦百度石

松河戸文化科学探求隊
隊長　長谷川 浩
080－3657-7052
松河戸町の沿革ホームページ
http://matsukawado.com/
http://matsukawado.org/